

平成30年度 前期選抜試験

I 期 一 般

国 語

注 意

- (1) 合図があるまでこの問題用紙は開かないこと。
- (2) 説明にしたがって、解答用紙に受験番号・氏名を記入し、受験番号はマークもすること。
- (3) 答えはすべて解答用紙にマークし、解答用紙だけ提出すること。
- (4) 問いにあてはまる答えを^{せんたくし}選択肢より選び、該当する記号にマークすること。

例 問1にオ、問2にウ、問3にアと答えたいとき

問1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
問2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問3	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

横 芝 敬 愛 高 等 学 校

【1】次の問いに答えなさい。

問1 「塵も積もれば山となる」と同じ意味を表すことわざを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 石の上にも三年 イ 枯れ木も山のにぎわい ウ 立て板に水 エ 三つ子の魂百まで オ 雨垂れ石をうがつ

問2 「傍若無人」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 心の動きをとめて、何も考えない境地にいたること。
イ 周囲のことを考えず、勝手気ままに行動すること。
ウ 自由自在に現れたり消えたりして、その所在がわからないこと。
エ 人の意見や批評をまったく気にしないで聞き流すこと。
オ 周りの人たちが反対者ばかりで、賛同してくれる人がいないこと。

問3 傍線部の慣用語の使い方が正しいものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 試合の途中から足に痛みを感じたが、腕によりをかけて最後まで頑張った。
イ 人違いだと気づいたときは顔から火が出るほど恥ずかしかった。
ウ 爪を研ぐような生活をして蓄えたお金を大学進学費用にあてた。
エ 心を込めて製作した自信作の陶器に二束三文の高値がついた。
オ 来年から取り組む新しい企画に対して猫の額ほどの予算が組まれた。

問4 樋口一葉の作品を次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 『どんぐりと山猫』 イ 『みだれ髪』 ウ 『坊っちゃん』 エ 『みかづき』 オ 『たけくらべ』

問5 傍線部の和歌の修辞法として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

- ア 縁語 イ 掛詞 ウ 体言止め エ 比喩 オ 枕詞

【2】傍線部を漢字に直したとき、最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

問6 葉のコウヨウを確かめる。

- ア 功
- イ 考
- ウ 効
- エ 巧
- オ 貢

問7 日本選手団のユウシに感動した。

- ア 遊
- イ 友
- ウ 優
- エ 勇
- オ 誘

問8 この取引はサイサンがとれないだろう。

- ア 採
- イ 債
- ウ 彩
- エ 最
- オ 再

問9 科学を日常生活にオウヨウする。

- ア 横
- イ 奥
- ウ 往
- エ 央
- オ 応

問10 この件に関しては私のサイリョウに任せられている。

- ア 量
- イ 料
- ウ 了
- エ 良
- オ 領

【3】次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

「理想とする人物を挙げなさい」と言われたら、君は誰の名前を挙げるかしら。

あるいは、中学生の君は、そういう名前を挙げることに、そろそろ抵抗があるかもしれないね。もしこれが小学生の時だったら、「理想とする」と「尊敬する」も何となくごっちゃになったまま、アインシュタインだとかイチローだとか、元氣よく答えていたに違いない。「偉いと思う」ということと、「自分もああなりたい」ということが、別のことではなかったんだ。

①、高校生にもなると、誰かを偉いと思うなんてことは、照れくさがって言わなくなるし、自分もああなりたいということも、はっきりとは口にしなくなる。ああなりたいとは思うんだけど、やっぱりどうも無理かなあ、というふうな迷いが生まれてくるんだ。そして、大人になってしまうと、ほとんどの人が、そんなことは一切口にしなくなる。そして、ああなりたい、ああしたいという高い理想を語る人がいると、「何をいつまでも子供みたいなことを言ってる」と、たしなめるようになる。これを現実的になることだと、そういう大人たちは言っているね。つまり、理想の反対が現実だというわけだ。

「理想の人物」に対して「現実の自分」、「理想の生活」、「現実の生活」、「理想の社会」に対しては「現実の社会」というふうに、両者がまったく相反するものだと思っているんだ。でも、そうだろうか。

たとえば君は、イチローを理想の人物とする。自分もいつかああなりたいと思う。それなら君は、彼を目標として毎日練習に励み、少々の辛さでは弱音なんか吐かないはずだ。理想を現実としようとする自分の努力に、疑いはないはずだよ。それなら、そんなふうに、理想によってこそ力強く生きられている君の毎日、つまり君の現実は、すでに理想であるといってもいいんじゃないだろうか。

なるほど、君が実際に大リーグで活躍して、新人王になるかどうかは、わからない。君は君であってイチローではないからだ。だからこそ、それでいいんじゃないだろうか。君は君として、君のやり方でイチローのようになればいいのであって、たとえ草野球の選手としてのイチローであれ、君が理想を失わずにその努力を続けていたのである限り、それは君の理想の実現なんだ。むしろ、実際に大リーグに行けたら、やっぱりそれは素晴らしい。君は最初から現実の内の理想、つまり自分の天分を知っていたというわけだ。

でも、もし君がここで、実際に大リーグに行けなかったことで自分を責め、「しょせん現実そんなもんだよ」と言い出した時、まさにそれが君の現実になる。理想と現実とを別のもの、理想を現実の手の届かないものとしてしているのは、現実ではなくて、その人なんだ。自分で理想と現実とは別物だと思っているんだから、理想が現実にならないのは当たり前のことじゃないだろうか。

観念が現実を作っているのであって、その逆ではないと、前の章で言いました。思いや考えが状況や環境を作り出すのであって、状況や環境によってその思いやその考えになるのではないということです。だから、この場合では、理想こそが現実を作っている、理想を失わずにいるのであれば、それはすでに現実であるということになるね。

だって、考えてもごらん。もし目標としての理想が自分の内にあるのでなければ、どうやって人は何かをすることが出来るだろう。「何かをする」ということは、必ず何かを目指してすることだ。歩くことだって、そこへ行くこととするからだし、物を把むことだって、その物を把もうとするからだ。何であれ何かをすることの目標があるのでなければ、人が何かをするなんてことはあるわけがないとわかるね。

どうして人が何かをするかと言えば、そうすることが自分にとってよいと思われるからだ。歩くならば歩くことが、把むならば把むことが、その時の自分にとってよいと思われるからそれをするんだ。自分に悪いと思われることを、わざわざする人はいないよね。だから、人が何かをするということとは、必ずよいと思われることを目指してということなんだ。

だったら、人が何かをするということは、必ず理想を目指しているということじゃないだろうか。理想があるのでなければ、人は生きてはいないはずだ。何かをすることができないからだ。理想なんかないから生きていたくもない、そう言う人だって、ご飯を食べようとする限りは、食べることがよいことだと思おうから食べるのだし、しよせん現実はそのまんまだよ、そう文句を言いながら生きている人だって、その文句を言うことがよいことだと思おうから、その文句を言っているわけだ。その限り、誰もやっぱり自分の理想をちゃんと現実に生きているというわけだ。でも、現実に対して文句を言いながら生きる人生が理想だなんて、かなり空しいと思うだろ。

しよせん現実はそのまんま、理想は理想にすぎないよ、そう言う人も、最初は理想をもっていたに違いないんだ。その理想をもち続けるのを途中でやめてしまったか、理想を実現する努力を怠けているか、その言い訳をしているだけなんだ。でも、⑥理想は、単なる空想か、漠然とした憧れにすぎない。単なる空想なら現実になるわけがない。理想を実現しようと努力することこそが現実なんだ。

理想がなければ現実はないということ、少し実感できるようになっただろうか。目に見える君の人生や、君の人生を含むこの社会を、一番深いところで動かしているのは「理想」、目に見えない観念としての理想なんだ。ちょっと難しい言い方をすれば「理念」と言ってもいい。よりよくなりたいたい、よりよくしたいという、現実の原動力としての、その思いだ。このことを自覚している大人はとも少なくて、やがて理想を語る君に對して、「もっと現実を直視しなさい」と諭すようになるだろう。でも、見えるものとして現われた現実だけを見て、見えない現実を見ていないのは彼らの方なんだから、適当に聞き流すがいいよ。

池田晶子 『14歳からの哲学』より

問11 ①に入るのに最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア あるいは イ だから ウ つまり エ ところが オ また

問12 傍線部②「そんなこと」が指す内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 小学生の時の夢を思い出すこと。 イ 自分を偉いと思うこと。 ウ 理想の実現が無理だと気づくこと。
エ 高い理想を語ること。 オ 理想の反対が現実であると理解すること。

問13 傍線部③「君の現実には、すでに理想であるといってもいい」と言う理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 理想が現実を作っているのであり、理想を失わずにいれば、それはすでに現実であるということになるから。
- イ 理想と現実がまったく相反するものなので、理想を追求しつづけることは、結局無駄な努力になってしまうから。
- ウ 理想を現実のものにするために、毎日練習に励み、辛くても弱音を吐くことはなかったから。
- エ 理想と現実とは別のものであり、理想を現実の手の届かないものと考えてしまう人が大勢いるから。
- オ 理想を失わず努力を続けていけば、少しずつ理想に近づくことになるから。

問14 傍線部④「たとえ」と同じ品詞のものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 私たちはいそがしい毎日の中で多くのことを学んでいる。
- イ おはよう、今日は天気も良くて気持ちのいい朝ですね。
- ウ 日本の中等教育は二つの学校、すなわち中学校と高等学校で行われる。
- エ 彼がみんなに自慢するスケートの実力はたいしたものだ。
- オ どうやら彼の言っていることは事実のようだ。

問15 傍線部⑤「自分の天分を知っていた」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 大リーグの選手になれるかどうかは運を天まかせるしかないということ。
- イ 草野球では、イチローのような活躍ができるということ。
- ウ 理想を現実のものにするために必死になって努力を続けてきたということ。
- エ 将来のことは私たちにはわからず、神のみぞ知るとのこと。
- オ 大リーグの選手として活躍する能力があるということ。

問16 ⑥に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 実現を目指している
- イ 努力を怠ることのない
- ウ はじめから実現不可能な
- エ 努力を放棄された
- オ 将来の目標としての

問17 筆者の考えとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 理想を追求することは大切だが、現実から目をそらしてはならない。
- イ 理想と現実の違いをよく見極め、地に足をつけて生活すべきである。
- ウ 理想を実現しようと努力することそのものが大切である。
- エ 理想が現実のものにならなかつたときも、自分を責めてはいけない。
- オ 理想を目指すためには大切なものを犠牲にする覚悟が必要だ。

【4】次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

亜紀子とは付き合い始めて二年近くになる。毎月、上じいと玉子丼を食べることは、亜紀子も知っている。俺にそういう相手がいることを、いことだと言ってくれている。でも、さすがにクリスマススイブに自分とではなく、上じいと食事をするには不満なようだ。

去年のクリスマススイブはすんなりOKしてくれたのに、今年はなかなか譲ってくれない^①。きっと去年よりお互いに対する気持ちが強くなっているからで、喜ばしいことなだけけど、説得するのは大変だった。

「デートするのは明日でええやん。明日かって、クリスマスなんやろう？ っていうか、明日こそクリスマス本番やん」

「明日じゃあかんわ。クリスマスはイブにするもんなんやって」

「そんなこと、誰が決めてん」

「知らんけど、そうなんやもん」

亜紀子のしかめっ面を見ながら、俺は上じいのことを想像した。

玉子丼を食べるのを二十五日にのばしたって、上じいは何も言わないだろう。今月なしにしたって、気にもしないはずだ。けれど、毎月、二十四日に上じいはうどん屋で待っている。いつもの席で俺が来るのを待っている。給料をもらったらすぐに玉子丼を上じいと食べる。それを崩すのは嫌だった。

「そうか。日本にもクリスマス制度ってもんがあったんやなあ」

俺が亜紀子との一件を話すと、上じいはいつものんきな調子で言った。

うどん屋の中は驚くくらいクリスマスの雰囲気かなかった。ツリーもなければ、クリスマスソングも流れていない。町中うんざりするくらいクリスマスで溢れている^②というのに、無関係な場所があることは不思議な感じがする。

「女の子はクリスマスとか、バレンタインとかが好きやで、もう大変や。しかも、なんや知らんけど、クリスマスはイブに祝わなあかんらしい。もうわけわからんわ」

「そりゃ、キリストさんもびっくりしはんなあ」

「ほんまやで。明日、亜紀子の機嫌を直さなあかんと思ったら、重い重いわ」

なんとか言いくるめたものの、亜紀子は最後まで腑に落ちない顔をしていた。亜紀子は一度膨れると、なかなかやっかいなやつだ。今まで何度かけんかをしたけど、仲直りする時には随分パワーを使った。それなのに、俺は上じいとの玉子丼を選んだ。彼女じゃなく、六十過ぎのじいさんだ。

「三好の好きな子や。ええ子なんやろう。きつと、うまくいくわな」

「そうやな」

「かわいいんやろう？」

「まあ、小さくてようしゃべるけど、かわいいんはかわいい」

⑤ 俺はちょっと赤くなりながら言った。上じいも「そりゃええな」と、にこにこしている。

「実はさ、俺、結婚しようと思ってるんや」

「結婚か」

「そや。まだ少し早いかもしれんけど、来月で俺、二十歳はたちになるしな。仕事も何とか慣れてきたし」

仕事に就いてもうすぐ二年になる。チーフになって収入も安定したし、この仕事を一生続けていく自信もついた。

「ほう。三好が結婚か」

上じいは目を細めた。⑥ 時や感心した時、上じいは目がなくなるくらいに細くなる。

「うまくいくかどうかからんけどな」

「大丈夫や。三好が好きになった子と二人一緒やったら、間違いないやろう」

「ほんまかな」

「ほんまや」

上じいはすっかりとうなずいた。⑦ 俺も大丈夫な気がしてくる。

「二十歳になって、結婚もして、三好もとうとう一人前になりつつあるんやな」

「まだまだやけどな。そや、でかいことはできんかもしれんけど、結婚式には上じいも来てくれよ」

「結婚式？」

「そや。招待状出すしな」

「それは行けん」

喜んでくれると思ったのに、上じいはあっさりと首を横に振った。

「なんでやねん」

「そんなもん、いちいち教え子の結婚式に行っとったら、身体がいくつあってもたらん」

「なんやそれ」

「教え子はごまんといえるのに、三好の結婚式だけ行くのはえこひいきになるやろ。まあ、ええがな。わしはひそかに三好の幸せを祈ってるから」

一緒に玉子丼を食べるのはよくて、結婚式に出席するのがひいきだなんて、上じいの理屈は相愛ならずよくわからない。でも、出席しないとゆうなら、しないのだ。上じいは意外と頑固だ。

問18 傍線部①「ない」と同じ用法のものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 子どものあどけない寝顔に気持ちいが和らいだ。 イ 千葉県に雪が積もることは少ない。

ウ 楽しみにしていた遠足は雲ひとつない晴天に恵まれた。 エ 修学旅行の疲れはまったくくない。

オ わからないことがあればどんどん質問してください。

問19 傍線部②「不思議な感じがする」理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 日本人はクリスマススを二十五日に祝うことよりもクリスマススイブに祝うことを大切にしているから。

イ もともと、日本はクリスマスと無関係なはずなのに、町中が盛り上がり上がっているから。

ウ 上じいと食事をしているうどん屋の店内ではクリスマススの雰囲気を感じられなかったから。

エ 今までは上じいと会うことを許してくれた亜紀子が急に反対するから。

オ 恋人と過ごす時間よりも六十過ぎの老人と食事をする約束を大切にしているから。

問20 傍線部③「腑に落ちない」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 安心できない イ 我慢できない ウ 信用できない エ 納得できない オ 許せない

問21 傍線部④「俺は上じいと玉子丼を選んだ」理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 上じいと食事をするのはいいことだと亜紀子が言ってくれたから。

イ もらったばかりの給料で上じいと食事をする約束を破りたくなかったから。

ウ 二年以上付き合い合っている亜紀子のわがままを我慢してきたが、今回ばかりは腹が立ったから。

エ クリスマスの雰囲気の中で浮かれていて本当に大切なことを忘れていて自分が嫌だったから。

オ 亜紀子の機嫌が悪くなったときに、どうすれば仲直りができるかわかったから。

問22 傍線部⑤「俺はちょっと赤くなりながら言った」理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 上じいに自分の恋人について話をするのが恥ずかしかったから。

イ 亜紀子の自分勝手な発言を思い出して腹が立ったから。

ウ 恋人のことを上じいに自慢しているように思えて気まずかったから。

エ 上じいにかかわられて気分が悪くなったから。

オ 結婚を考えていることが自分自身へのプレッシャーになったから。

問23 ⑥に入る語句として、最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア あきれた イ 嬉しい ウ 驚いた エ 失望した オ つらい

問24 傍線部の「俺も大丈夫な気がしてくる」理由として最も適當なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 信頼し、慕っている上じいが大丈夫だと言ってくれたから。
イ 亜紀子とは付き合い始めて一年以上たっているから。
ウ 二十歳になるという節目に結婚することに意味があるから。
エ これから先も自分が亜紀子を好きだという気持ちは変わらないと思っっているから。
オ 時々ケンカをすることもあがるが、自分が謝ってすぐ仲直りすることができるから。

問25 本文の内容と合うものとして最も適當なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア せっかく結婚式に招待したのに出席を断った上じいに対して三好は失望している。
イ 亜紀子はクリスマススイブに三好が上じいと過ごすことを不満に思っている。
ウ 今年のクリスマスに三好は亜紀子を上じいに紹介するために三人で食事をしようと考えていた。
エ 三好は上じいと食事をして亜紀子を一人にしてみましたことを後悔している。
オ 上じいはクリスマススイブに三好と食事をすることを遠慮している。

【5】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、唐土に莊子といふ人ありけり。家いみじう貧しくて、今日の食物絶えぬ。隣に監河侯といふ人ありけり。それがもとへ、今日食ふべき料の粟を請ふ。河侯がいはいく、「いま五日ありておはせよ。千両の金を得んとす。それを奉らん。いかでか、やんごとなき人に、今日参るばかりの粟をば奉らん。返す返すおのが恥なるべし。」といへば、莊子のいはく、「昨日道をまかりしに、あとに呼ばふ声あり。顧みれば人なし。ただ車の輪跡のくぼみたる所にたまりたる少水に、鮒一つふためく。何ぞの鮒にかあらんと思ひて、寄りて見れば、少しばかりの水に、いみじう大きな鮒あり。『何ぞの鮒ぞ』と問へば、鮒のいはく、我は河伯神の使ひに、江湖へ行くなり。ア それが飛びそこなひて、この溝に落ち入りたるなり。イ 喉乾き、死なんとす。ウ 我を助けよ。エ と思ひて呼びつるなり。オ といふ。答へていはく、『我、いま二三日ありて、江湖といふ所に遊びしに行かんとす。そこにもて行きて放さん』といふに、魚のいはく、『さらにそれまでえ待つまじ。ただ今日一提ばかりの水をもて、喉をうるへよ』といひしかば、さてなん助けし。鮒のいひしこと、わが身に知りぬ。さらに今日の命、もの食はずは生くべからず。後の千の金、さらに益なし。』とぞいひける。

問26 傍線部①「やんごとなき人」の本文中の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア お金がない人 イ 高貴な人 ウ 困っている人 エ 正直な人 オ 助ける必要がない人

問27 傍線部②「おのが恥なるべし」とあるが、何が「恥」なのか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 荘子に貸せるお金を持っていないこと。 イ 江湖へ出かけるための旅費がないこと。
ウ 荘子から借りたお金を返すことができないこと。 エ 荘子に一日分の食べ物しか渡せないこと。
オ 昔は裕福だったのに、今は貧乏になってしまったこと。

問28 傍線部③「何ぞの鮒にかあらん」の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア いつから鮒がいるのだろうか。 イ 本当に鮒だろうか。
エ 何か鮒にあげられないか。 オ どこから鮒がやってきたのか。
ウ どういう鮒であろうか。

問29 傍線部④「鮒のいはく」について「鮒」のことばはどこまでか。ア～オの中から一つ選び、マークしなさい。

問30 傍線部⑤「それ」は何を指すか、最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 監河侯がお金を手に入れること。 イ 河伯神が江湖に到着すること。 ウ 荘子が二、三日後に江湖に遊びに行くこと。
エ 鮒が荘子以外の人と話すること。 オ 荘子と監河侯が仲直りすること。

問31 傍線部⑥「助けし」について、誰が誰を「助け」たのか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 荘子が鮒を イ 河伯神が荘子を ウ 監河侯が荘子を エ 荘子が河伯神を オ 河伯神が鮒を

問32 問題文の主題として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 大きな計画を成功させるためにはしっかりした準備が必要だ。
イ 将来の大きな約束より今の危機を脱する助けが必要だ。
ウ 相手を見た目や第一印象で判断してはいけない。
エ 身近にいる人とは普段から親しく付き合うべきだ。
オ 困っている人を助ければ自分が困ったときに助けてもらえる。

問33 この作品は鎌倉時代に作られたものである。同時代に作られた作品を次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 古事記 イ 枕草子 ウ 源氏物語 エ 徒然草 オ 奥の細道